

2024 年度後期授業計画

科目名 (副題)		開講年次	単位	担当者名
対話的自己理解		水曜日 13 時～13 時 50 分		大内雅登
授業概要				
<p>発達に課題があるときには、自分が何者であるのかを語るときに、多数派との比較を主軸として語らざることが多くなってしまふ。従属的な自己理解から、独立的な自己理解への変化を学び、生き生きとした自分語りを学んでいく。誰かに何かを伝えるとはどういうことかを見つめながら授業を展開する。</p>				
授業目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・多数派が求める自己理解のあり方を学び、社会的に求められている相対化した自分を学ぶ。 ・多数派の目によらない自己理解のあり方を学び、生き生きと暮らす絶対化した自分を学ぶ。 ・自他間対話と、自己内対話の技術を高め、周辺者に自分を知ってもらう方法を学ぶ。 				
成績評価方法・基準				
教科書・教材・参考文献 等				
質問への対応				
授業中にも可				
授業経過				
項 目			内 容	
1	10・2	自己理解とは何か	自己理解とセルフアドボカシーを学ぶ。	
2	10・9	自分を知る (特性)	障がい特性に基づく自己理解を学ぶ。	
3	10・16	自分を知る (個性)	対比的な自己理解からの脱却を学ぶ。	
4	10・23	多数派を知る (特性)	いわゆる定型発達者がもつ特性を学ぶ。	
5	10・30	多数派を知る (個性)	対比的な他者理解からの脱却を学ぶ。	
6	11・6	特性的アドボカシー	対比的に自己を開示できる視点を学ぶ。	
7	11・13	個性的アドボカシー	対比的な自己開示からの脱却を学ぶ。	
8	11・20	相対化した自分を語る 1	逆 SST イベントの語り手となるべく、自分の特性についての出題文を作成する。	
9	11・27	相対化した自分を語る 2	簡易逆 SST イベントを実施する。交代で語り手と聞き手となる。	
10	12・4	相対化した自分を語る 3	簡易逆 SST イベントを実施する。交代で語り手と聞き手となる。	
11	12・11	絶対化した自分を語る 1	逆 SST イベントの語り手となるべく、自分の個性についての出題文を作成する。	
12	12・18	対話技術としての更問い	相手の理由の世界を確認する対話技術として更問いを学ぶ。	
13	1・8	絶対化した自分を語る 2	簡易逆 SST イベントを実施する。交代で語	

			り手と聞き手となる。
14	1・15	絶対化した自分を語る 3	簡易逆 SST イベントを実施する。交代で語り手と聞き手となる。
15	1・22	自己紹介	他の受講生に向けて、自己紹介を行う。
履修者へコメント			
<p>対話の前提から丁寧に学び、自分のことをもっと知っていきましょう。目標は、その自分を相手にも知ってもらうことです。授業の性質上、出題文の作成場面があります。もし独力で作りにくいことがあれば、講義時間外に個別対応を行う予定です。</p>			